

取組事例の名称		多機能盛土による放射性廃棄物の遮蔽実証試験
概要	対象	浄水場脱水汚泥
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )
	規模	廃棄物容量13m <sup>3</sup> 底面：505cm×505cm=25.5m <sup>2</sup> 高さ：300cm
	実施会社	多機能盛土研究会
	実施場所	福島県
	発注者	多機能盛土研究会

1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称

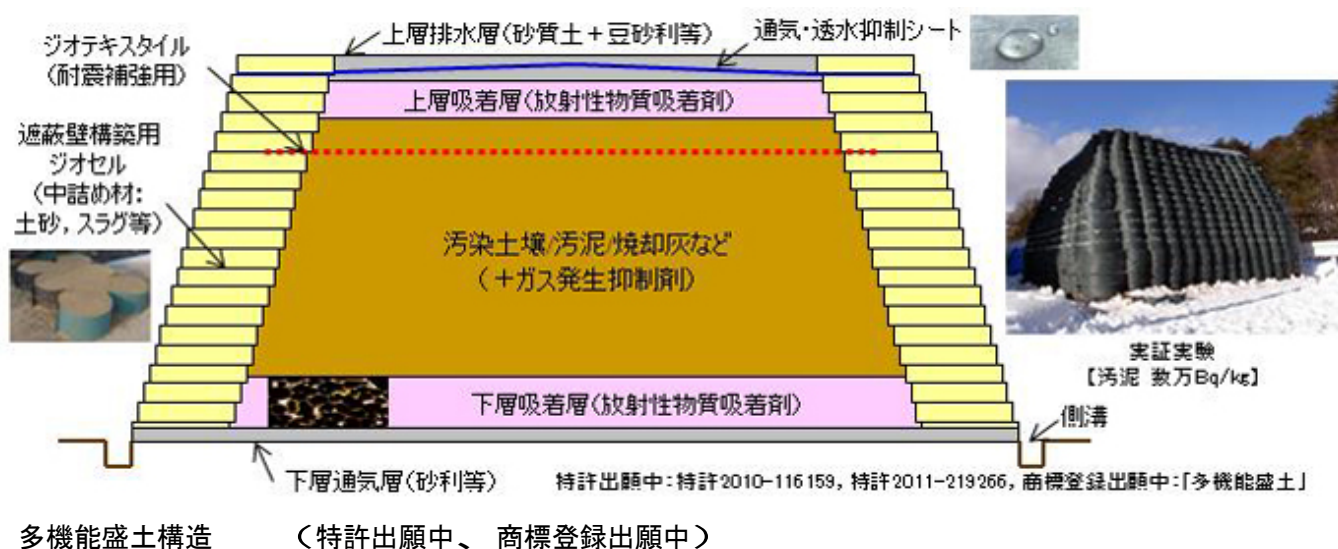
多機能盛土による放射性廃棄物の一時保管

多機能盛土には、遮蔽壁構築用のジオセル（中詰材：砂）と上・下層放射性物質吸着層、および上部には通気・透水シートが配置しているため、放射線の遮断、雨水の浸透抑制、放射性物質の移行抑制の機能を実現できる。また、下部には通気層も設置しているため、盛土内を準好気性状態にし、嫌気性ガスの発生を抑制する機能がある。

2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果

- ・安価で急速施工が可能。
- ・十分な放射線の遮蔽効果、セシウム吸着層。
- ・通気性・雨水抑制構造。

(写真、イラスト)



取組事例の名称	多機能盛土による放射性廃棄物の遮蔽実証試験
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <p>盛土規模が比較的小さいため、作業空間が狭く、ジオセル中詰砂を十分に締固めることに留意した。</p>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>多機能盛土表面線量は、周辺の空間線量より小さい値となっており、完全な遮蔽効果が確認された。これにより、放射性汚染土を安全に保管できる設備であるとの評価を得た。</p> <p>一次保管した汚染土を中間貯蔵施設に運搬する際には、遮蔽壁を容易に解体することができる点も長所である。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <p>大規模な盛土になる場合の盛土天端の有効利用。</p> <p>狭いスペースや傾斜地盤に設置する場合の施工手順。</p> <p>高線量の廃棄物に対する遮蔽壁の仕様、施工方法。</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>腐食を伴う伐採した枝葉、有機物混りの汚染土の仮置保管方法</p>	
NETIS登録	